

(株) 三木設計事務所
藤田 純

－ 震災時の支援活動について －

1. はじめに

株式会社三木設計事務所の藤田純と申します。よろしくお願ひ致します。私は三木設計事務所に入社して以来、主に上水道の設計を行ってきました。会社は秋田市にあり、仕事は主に秋田県内を中心に行っております。「みちのく」への寄稿にあたり、震災に関する上下水道支援活動のテーマについて、私が経験した支援活動について紹介したいと思います。

2. 東日本大震災時の支援活動での苦労

東日本大震災では、東北地方も未曾有の大災害が発生し、特に太平洋沿岸では津波による災害が今でも忘れられません。私が暮らしている秋田県内は幸いにも大きな被害はありませんでしたが、被災地では上下水道施設も大きな被害を受けており、私も僅かではありましたが、復旧活動に協力させていただきました。

災害復旧の支援については、過去の経験として水害に関する災害支援業務は経験しておりましたが、地震災害というのは経験がありませんでした。弊社が支援した案件は宮城県内のポンプ場の被災状況の調査と復旧方法の検討、災害査定資料の作成でした。津波による災害ではなく、地震による直接の被災案件でした。

担当した現場のポンプ場は、建物の至る所にクラックが入っていたほか、構内の舗装の剥離、地盤の沈下や隆起が発生しておりました。幸いにも設備への被害は少なかった模様でした。



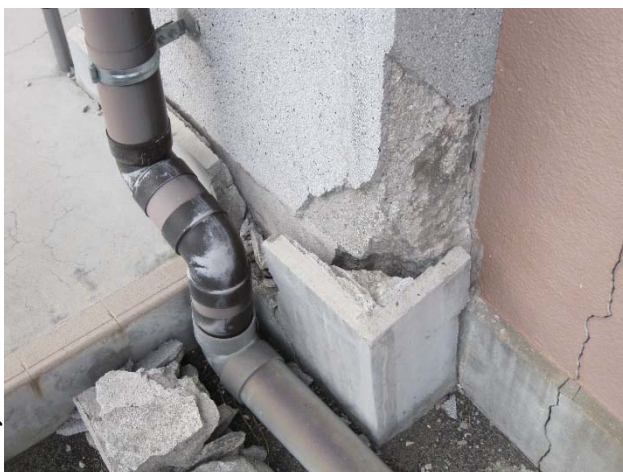
支援活動で苦労したことは、被災状況の写真を撮影して報告書にまとめ、被災状況を適切に伝える事でした。

秋田県内で過去に災害復旧活動で対応した経験を基に進めたつもりでしたが、当時の査定が甘かったのか、今回は受注先の担当者から何度も撮り直しの指示を受け、訂正を余儀なくされた事です。普段は秋田

に住んでいるため、何度も秋田県と宮城県との往復をしました。当時は震災直後で復興支援が盛んであった事もあり、宿泊場所の確保も困難でした。また、復旧を迅速に進める必要があったため、早急な対応を求められました。

現場で収集した情報を秋田に持ち帰り、夜遅くまで作業を余儀なくされたのも思い出されます。

このように、何度もやり直しを繰り返しながら、何とか資料作成を終え、無事に成果品を納める事ができました。苦労しましたが、このような大災害の復興に少しでも支援できた事は自身にとっても貴重な経験であったと思います。



3. 被災地を見て感じたこと



震災の支援活動のなかで宮城県内各所をまわりましたが、テレビ等の報道でしか見る事のなかった津波による被災地を実際に目の当たりにし、とても衝撃を受けました。

現場で見た水管橋も流出していました。この周辺にもたくさんの方の住宅等があったかもしれないことを考えると、改めて津波の恐ろしさを感じました。

4. 最後に

近年、地球温暖化の影響なのか、台風や大雨などにより各地で甚大な被害が発生しており、被災状況を報道で目にする機会が多くあります。上下水道施設に関していえば、昨年千葉県内で発生した台風による災害によって長期停電が続き、断水被害が発生したことが記憶に新しいです。

設計者の立場として災害に強い施設を設計するのは当然の責務ですが、自然災害のため完全に防ぐ事は困難です。今後、災害が発生した場合には、今回経験した支援活動の経験を生かし、復旧活動に貢献していきたいと思いますので今後とも宜しくお願い致します。